

イチゴに発生する病害虫

1月の農作業

■ハダニ類

- ・発生初期は発見が困難で、下葉で増殖したハダニは新葉の展開に伴い上位の葉に移動し、葉の表面から見ても白いカスリ状の斑点が見える。
- ・主に葉の食害であるが、多発すると果実にも寄生して着色不良となる。
- ・繁殖は旺盛で、同一株上での個体数は急増するが、隣接株への移動は比較的遅い。
- ・発生の始まりは苗からの持ち込みが多く、3月以降発生が多くなる。
- ・定植後、降雨が少なく、乾燥すると発生しやすい。



ハダニ類の被害葉

【防除】

- ・定植前の苗への防除を行う。
- ・開花・結実期の防除は葉害も出やすいため早めの防除を行う。
- ・主に葉裏に寄生しているので、薬剤が十分かかるように散布する。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
アーデント水和剤	1,000倍	収穫前日まで	4回以内

■うどん粉病

- ・葉・果実・葉柄・つぼみ等に発生し、植物体表面にクモ糸状のカビと白粉状物を形成する。
- ・果実に発生すると傷みやすくなり、未熟な果実では肥大が悪くなり、着色も悪くなる。
- ・胞子は飛散して広がり蔓延する。
- ・夏の高温期には減少するが、気温の低下とともに増加する。
- ・乾燥・多湿のいずれの状況でも発生する。
- ・草勢が衰えたときに多発する傾向があり、結実集荷期に発生し、被害が大きくなることもある。

【防除】

- ・一度発生すると根絶しにくいので、定植前までの育苗期に防除を行う。
- ・病気の発生した株は放置せず処分する。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
トリフミン水和剤	3,000倍	収穫前日まで	5回以内



うどん粉病の被害葉



うどん粉病が発生した果実

ウメに発生する病害虫

1月の農作業

■カイガラムシ

- 枝や幹にうろこのように寄生し、枝の下方に白い粉をふきつけたような蛹が集団で寄生する。多いと樹勢が衰え、小枝は枯死する。
- 雌は灰白色または灰褐色の扁平で、円形または楕円形をしており、約2mm。雄は長方形で長さ約1mm。
- 雄成虫は越冬し、年2回発生する。産卵期は5月頃で、孵化は6月頃に始まる。

【防除】

- 散布はなるべく晴天の続く日を選び、かけむらの無いよう丁寧に散布する。
- 寄生が多いと重なり合って防除効果が落ちるので、あらかじめワイヤーブラシなどでこすり落として散布する。



ウメシロカイガラムシ



タマカタカイガラムシ

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
マラソン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内

■黒星病

- 降雨の多い5～6月に発生しやすく、主に病斑は果実に発生する。
- 果実が1.5cmほどになったころ、果実の方に暗緑色の斑点を生じる。
- 多発時は淡黒色の病斑で、直径2～4mmですすカビ状になる。
- 罹病枝の越冬病斑上に、2～4月に分生子を形成して一次感染源となる。
- 排水不良田や土壌水分の多いほ場で発生しやすく、風通しや日当たりの悪い場合も多発しやすい。
- 若木よりも老木での発生が多い。



淡黒色の斑点を生じたウメの果実

【防除】

- 前年の発病枝や果実は極力除去し、ほ場から持ち出し処分する。
- 茎葉が過繁殖にならないよう剪定・整枝を行い、排水対策を行う。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
ベルコート水和剤	2,000倍	収穫30日前まで	3回以内

裏面はイチゴに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.345 令和2年1月15日発行